

## 9月26日実施 あすみが丘地区の小・中学校通学区域の調整に係る説明会の記録について

千葉市教育委員会学事課

秋涼の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

過日開催しました「あすみが丘地区の小・中学校通学区域調整に係る説明会」の質疑応答等の記録を作成しましたので、配布いたします。今後も児童生徒のよりよい教育環境を整備するため、地域・保護者の皆様にご理解をいただけるよう、取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

1 日時：平成27年9月26日（土） 午前10:00～11:40

2 場所：あすみが丘小学校 体育館

3 出席者 学事課職員 保護者・地域住民 緑区選出市議会議員

### 4 概要

開 会：10:00～（教育委員会挨拶、参加職員紹介等）

説 明：10:10～

(1) 各校の児童生徒数・学級数の現状及び今後の見込み

・あすみが丘小、土気南小、大椎小、土気南中、大椎中について

(2) 通学区域の調整について

・あすみが丘4～6丁目及びあすみが丘東1～2丁目の「あすみが丘小学区」を「土気南小学区」へ

・あすみが丘東3丁目の「土気南中学区」を「大椎中学区」へ

・あすみが丘東5丁目の一部を「あすみが丘小学区」から「大椎小学区」へ

(3) 通学区域規則改正までの予定

質疑（主な質問・意見とその説明）10:30～

○代表者会議の議事録は公開されているのか。また、メンバーはどのような構成になっているのか。

⇒現在、代表者会議の議事録は公開していない。メンバーは、自治会協議会代表者、育成委員会会長、各自治会長、各学校の保護者会会長、関係する自治会の自治会長、各学校の校長である。

○小学生の徒歩通学の基準というものはあるのか。

⇒通学距離については、文部科学省から、小学生で4km以内、中学生で6km以内という基準が出されている。

○セーフティウォッチ事業とは、具体的にどういった取組なのか。

⇒地域の皆様のボランティア活動の一環として、子どもたちの安全の見守り活動をしていただいている。

○小規模校の弊害をどのように考えているか。市内の他の小規模校との整合性や大椎小の中での取組を検討した上での案なのか。

⇒千葉市では、12学級から24学級を適正規模と捉えている。学級数があまりにも少ないと、人間関係がこじれたときにクラス替えが困難であるなど、人間関係が固定化しやすい。一方、小規模校には小規模校のよさがある。行き届いた教育、個に応じた対応ができる。小規模校、大規模校、それぞれのメリット、デメリットがある。

⇒現在の大椎小は13学級で、数年後には10学級を切る可能性がある。大椎小へ来てくれるお子さんがあれば、大歓迎である。職員全員で見守る体制をつくっている。

○それぞれの小学校同士で交流はあるのか。

⇒日々の授業での交流というのは、なかなかできないが、青少年育成委員会が中心となった活動での交流や市の球技大会の前に一緒に練習する機会をもったりしている。

○今回の説明会の周知はどのような方法をとったのか。

⇒あすみが丘地区の小・中学校の保護者には児童生徒を通して文書を配布するとともに、緑区内と大網白里市・東金市の幼稚園・保育園等であすみが丘地区のお子さんがいるところに配布をお願いした。また、各自治会を通して回覧をお願いした。こちらの手違いで一部の幼稚園への送付が遅れたことは、お詫びしたい。

- 今回の調整の経緯について聞きたい。  
⇒あすみが丘小の児童推計を基に、昨年度、教育委員会内部で検討した案を提示した。推計が正しいのか、もう少し時間をかけて協議した方がよいのではないかと意見をいただき、今年度4月からの実施を見送った。その後、代表者会議の中で協議していただき、合意に至った。
- 規則改正は、教育委員会会議で決定するのか、市議会で議決されるのか。  
⇒教育委員会の中での会議をもって決定する。
- 集団での登下校はやっているのか。  
⇒現在、集団登下校は行っていない。大きな震災等があったときに教師がついて集団で下校する、という体制はとっている。
- あすみが丘東5丁目の一部の地区が今後増えるという予測の根拠は、どのようになっているか。  
⇒現在の住民基本台帳であすみが丘東5丁目の一部の地区にいる入学前の児童数を調べ、それを基に1学年およそ15名と仮定してあすみが丘小の推計人数を減らし、大椎小の推計人数を増やしている。
- 兄弟がいる子は、手続きを取れば下の子も同じ学校に通えるということであると、予測ほど人数の変化はないのではないかと。  
⇒調整後の推計ほどの変化ではないかもしれないが、現在のあすみが丘小の教室不足解消にはつなぐと考えている。
- 住宅街の中を歩いて通学するのは、危険が増すのではないかと。  
⇒保護者の方だけでなく、地域の方にもご協力いただいて、放課後等の見守りを行っていくことを考えている。
- あすみが丘東5丁目の一部の地区を大椎小学区に変更することで大椎小の小規模校化を解消するニーズは、誰が持っているのか。  
⇒代表者会議の中で、あすみが丘小の大規模校化の問題とともに、大椎小の小規模校化についても解決してもらいたいという声があり、あすみが丘地区全体の問題として検討することにした。
- なぜあすみが丘東3丁目の地区はあすみが丘小で、あすみが丘東5丁目の一部の地区だけ大椎小への変更なのか。  
⇒あすみが丘東3丁目の地区は大通りを歩いてあすみが丘小へ通学するが、大椎小へ変更とすると通学距離が大変遠くなるため、あすみが丘東5丁目の一部の地区のみ大椎小へ変更することとした。
- あすみが丘東5丁目の一部の地区の変更については、不確定要素があり、大椎小の小規模校化解消には効果が薄いのではないかと。  
⇒意見が多く出されているので、あすみが丘東5丁目の一部の地区の変更については持ち帰り、代表者会議で再度検討させていただきたい。
- 全児童・保護者にアンケート調査をして、調整後の人数を把握した方がよいのではないかと。  
⇒あすみが丘東5丁目の一部の地区に関連してアンケートを実施すると時間がかかり、「あすみが丘4～6丁目」、「あすみが丘東1～2丁目」、「あすみが丘東3丁目」の地区についても変更の実施が先送りとなってしまう。アンケートの実施は、見送らせていただきたい。
- あすみが丘東5丁目の一部の地区の変更については反対が多いが、「あすみが丘4～6丁目」、「あすみが丘東1～2丁目」、「あすみが丘東3丁目」の地区の変更であすみが丘小の教室不足の解消はできている。「あすみが丘4～6丁目」、「あすみが丘東1～2丁目」、「あすみが丘東3丁目」の地区では既に準備している家庭もあるので、この地区は早目に決めてもらいたい。
- あすみが丘東5丁目の一部の地区の変更の案は、どのような経緯で出てきたのか。  
⇒当初、あすみが丘小と土気南小の2校での調整案であったが、今回の通学区域調整の中で、3つの小学校が均衡ある発展を遂げられるのがよいのではないかと考え、あすみが丘東5丁目の一部の地区の変更を加えた。